九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

明治期実録の研究 : 士族反乱ものを中心として

生住, 昌大

https://doi.org/10.15017/1440994

出版情報：九州大学, 2013, 博士（比較社会文化）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

論文審査等の結果の要旨

本論文は、江戸時代には写本のかたちで盛んに読まれた「実録」というジャンルが、明治期においてどのように展開したのかを士族反乱に取材した実録を中心に検討・考察したものである。

序章では、研究の背景と先行研究の問題点を整理し、明治期実録に固有の性格を明らかにするための論点を提示する。具体的には、明治期実録の特色を新聞メディアとの関係に見て、新聞メディアとの比較と検討が明治期実録研究の基本的な方法であると提言する。

第一章では、士族反乱報道の推移と実録の刊行を対比し、新聞の補完的読み物としての明治期実録の特性について、物語の完結に固執しないなどの内容の面、および、途中で刊行を打ち切るのも常態であるなどの書誌学的な面から具体的に裏付けた。

第二章では、『熊本伝報録』と新聞記事との比較を通して、明治期実録が果たしたメディア的役割について考察している。具体的には、読売新聞社との関係に注目し、新聞黎明期における新聞読者の拡大に実録が一役買っていた可能性について指摘した。

第三章では、絵入新聞社刊行の『西国戦争日誌』を対象に、挿絵、新聞「論説」欄の引用、新聞情報の取捨選択、書誌事項などの検討から、同書の政府擁護という政治性について指摘した。

第四章では、『西国暴動録』に、新聞の「論説」欄や「投書」欄の政府批判を無効化する一面があることを指摘し、そうした政治性が「国民化」への志向性に通じることを考察している。

第五章では、士族反乱を描いた錦絵を対象に、錦絵と新聞記事との関係、画工の虚構化の様相、明治10年以降の「異種百人一首」との関係について考察している。

終章では、各章のまとめを記し、今後の展望を述べている。

また、資料編として新資料『ひらかな（熊本／山口）賊徒追討録』の翻刻と、論者が蒐集した「西南戦争錦絵」一覧が付されている。

本論の意義は、西南戦争以前の士族反乱ものが主な対象とはいえ、明治期実録という新たな研究領域を対象化している点にある。士族反乱の実録を対象にした先行の研究論文は、散発的には見られるが、総合的な体系化を目的とした論文としては、本論文は最初の試みになっている。それは一方で、従来の日本の近世および近代の文学研究では、マイナーな研究対象であったことを意味する。しかし、このマイナーな研究対象である士族反乱の実録が集中的に刊行されたのが、明治９年から10年にかけての時期というのは、大きな意味を持つ。近年是正されつつあるとはいえ、明治開化期は、近世文学研究の側からも近代文学研究の側からも、本格的な研究の蓄積がなされてこなかった文学研究の盲点とも呼ぶべき時期であるからである。つまり、本論文には、その明治開化期の文学という日本文学研究の領域における宿題に対して、明治期実録というマイナーな研究対象に注目することで、近世から近代への展開やその内実を検証している一面がある。また、明治期実録の研究のためには、新聞をはじめとしたメディア研究、錦絵や挿絵と関係する美術史的な検証が不可欠であることを示し、領域横断的な研究の方法を提示・提言していることも、比較社会文化という学位の名にふさわしいと考えられる。附録の資料も、今後の明治開化期の文学や美術やメディア研究に裨益するところ大である。

以上により、本論文は博士（比較社会文化）の学位を授与されるに十分な内容を持つと判断した。

試験又は学力確認の結果の要旨

甲　第　号	氏名	生住昌大

調査委員	主査	九州大学	松本常彦
	副査	九州大学	吉田昌彦
	副査	九州大学	波潟　剛
	副査	九州大学	高野信治
	副査	徳島文理大学	佐々木　亨

試験又は学力確認の結果の要旨

九州大学大学院比較社会文化学府教授会に審査を付託された，生住昌大氏の博士学位申請論文の公開審査を，平成２６年2月１４日（金）１６時００分から１８時００分まで，本学府比文・言文研究教育棟会議室で開催した。最初に，主査が委員の紹介を行い，当日の審査の次第について説明した。

申請者による論文概要の説明を受け，各委員との間で質疑応答を行った。約２時間に及ぶ公開審査で，申請者は各委員の質問や意見にも的確に応じた。論文内容及び公開審査の応答を踏まえ合議の結果，委員全員一致で申請者が博士（比較社会文化）の学位を授与されるに十分な資質と知見を有すると判断した。

（比甲様式 13-4）